第4回学校運営協議会　記録	
出席：藤田・永井・泉・稲葉・剱持・田村　欠席：・秋山・岩間・齋藤・三田	
1開会	略
2校長挨拶	年末から3年生の入試が続いている。公立の合格発表が27日。
	インフルエンザによる学級閉鎖などはなくやってこられている。
	雪の日の翌日は1時間遅れでスタートした。
3協議	
今年度の振り返り	
校長	VTR 視聴。新聞掲載記事の紹介。
	学校生活の振り返りの紹介
田村	校長の意見に同感。自由と規律と責任の全てを大切にしてほしい。
剱持	にのみや学園で合同の学校行事をしたいという意見だったのかもしれない。
校長	修学旅行は学校ごとに新幹線が割り振られるので難しい。ほかの行事も難しい。
稲葉	練習は各校で、本番は町民運動場の体育祭なら可能だし、活気づくかもしれない。
	一方で、修学旅行の日程で体育祭の日程が決定してくるから難しいとは思う。
泉	小中一貫の中身が見えにくい。保護者が見える工夫が必要。
稲葉	お祭りをにのみや学園主催でやっていくのもいい。
	教育委員会表彰はすごいが、クラブチームでの表彰が多くなると、部活が盛り上がらないのでは。
	教育委員会表彰ならば、学校教育を優先して表彰すれば、時間も短縮できる。
	ダンス部は安定して活躍できそうか。経験者ばかりが入るとは限らないので。
剱持	部活動紹介を見たが、素人も募集していた。
稲葉	ダンスはジャンルが多いので、様々なジャンルを楽しめむ部活も良いと思う。
泉	二宮高校には男子部員もいるが、西中には男子はいない。明後日ダンス部がラディアンで踊るのでよかったら。
稲葉	ダンス部に外部コーチを呼ぶのも良いと思う。顧問の先生に頼りすぎると、ジャンルが固定されてしまうし、その方が異動してしまうと大変なことになる。
	一方で、熱心に指導しすぎて、不適切な指導になる可能性もあるので難しいと思う。
泉	無理しなくていいんだよ、だけの指導だとよくないと思う。無理して働かなくていいんだよ、とはならない。
	命にかかわることなら、もちろん逃げてもいい。

田村	受け取る子どもの個性もある。
稲葉	一人ひとりの個性を理解して伝えなくてはならない。
	行かなくてもいいよ、と言うと、行かなきゃ、となる子もいる。
田村	選択肢があることは、いいことだ。
校長	学校に行かなくても、いつかは自立できるようにしたい。
	学校は学校でしかできない経験があるよ、と伝えたい。
稲葉	保護者は義務教育なのだから、学校には行かせるという気持ちでいてほしい。
剱持	学校に行きづらい子の居場所はある？
校長	学校にはほっとルームが、教育委員会はやまびこが、地域にはフリースクールもあります。
稲葉	いじめなどの雰囲気は西中からは感じないが、学校に来られない子もいるのは、育った環境の影響か？
校長	子どもに応じた居場所を提供できる世の中になっているのはよいこと。
	一方で、選択肢が増えるほど先生方は「学校においでよ」と言えなくなっていく。
	不登校になる気持ちの原因を抑えられれば、不登校という現象は出はくなる。
	その原因を明らかにし、その対応をすべきだ。
剱持	中学生だから学べることを大切にしてほしい。
泉	保護者と子どもの関係は大切。我が子を深く理解して育てていくべき。
剱持	保護者と話す機会も大切。
4その他	
来年度について	委員を来年も引き受けていただきたいが、ご無理なようでしたら後ほどおっしゃってください。
5閉会	略